

マルチステークホルダーによる新しい共創のかたち

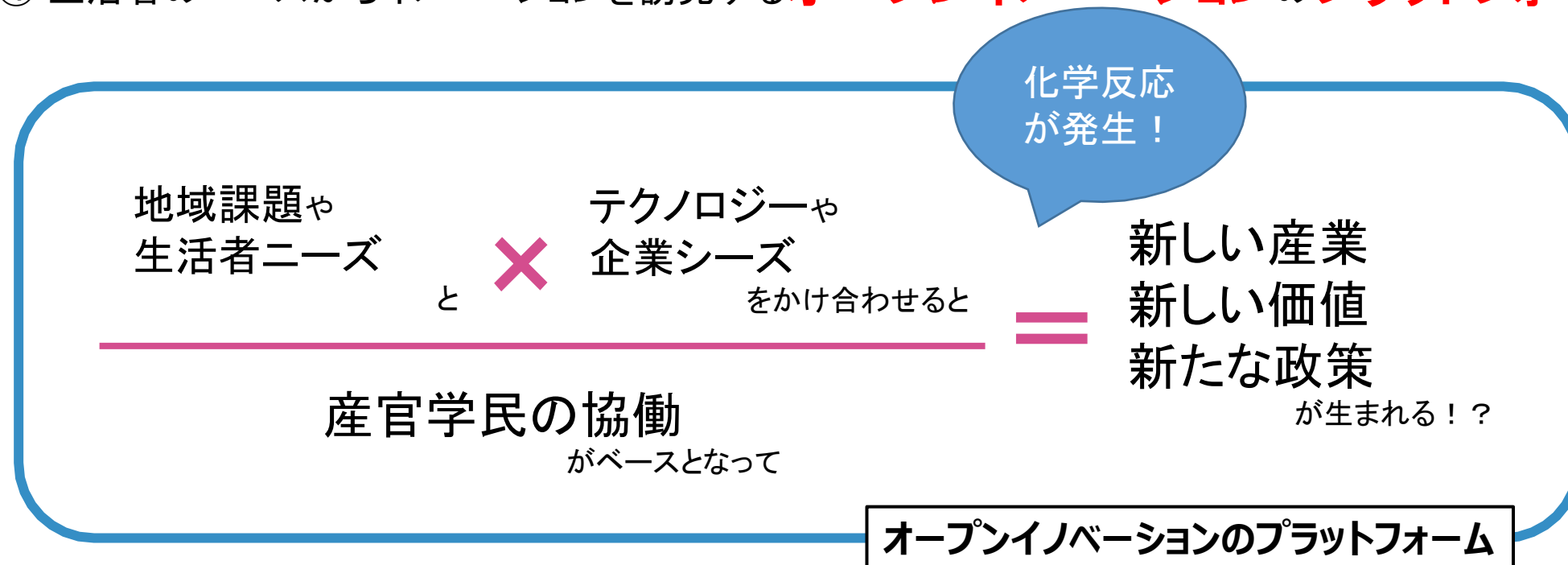
鎌倉リビングラボ Kamakura Living Lab

東京大学 名誉教授 秋山 弘子
NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台 副理事長 青木 清
イトーキ株式会社 先端技術研究所 所長 秋山 恵
鎌倉市 共生共創部 部長 比留間 彰



リビングラボとは・・・

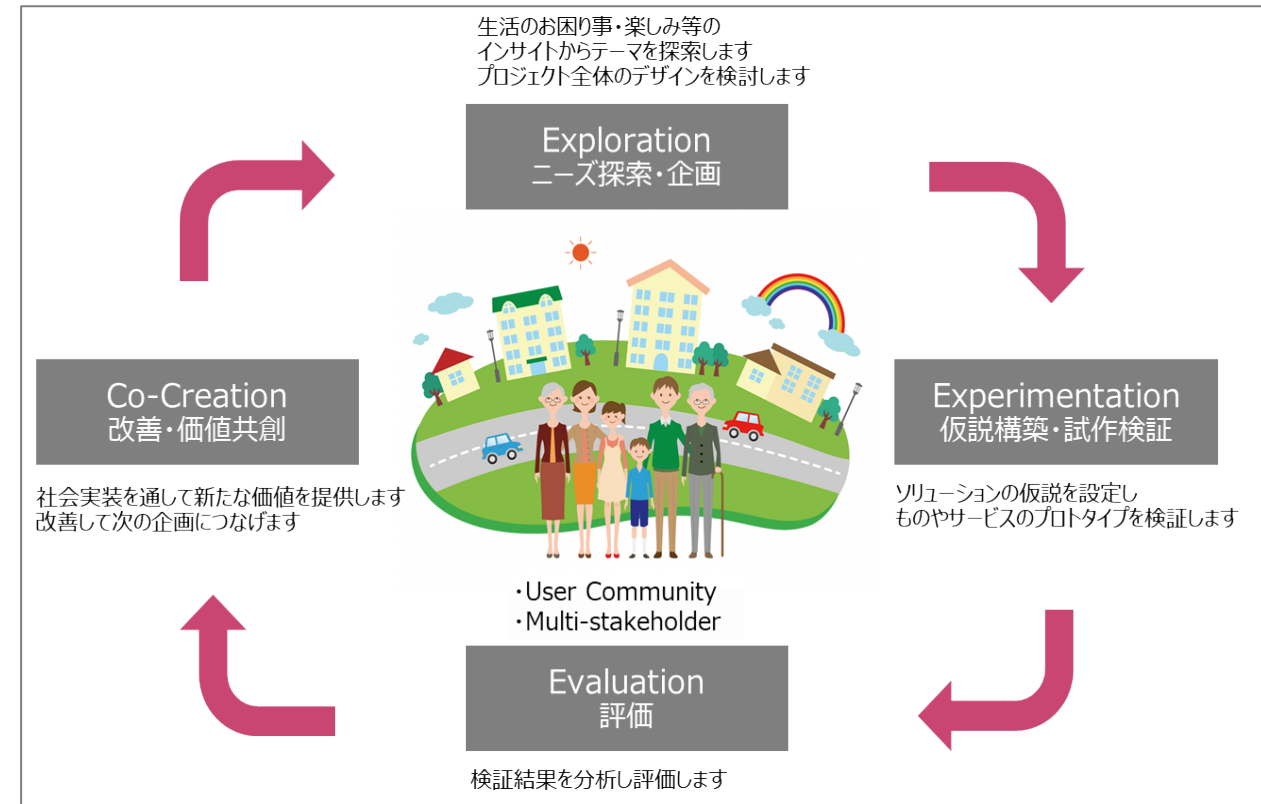
- ① モノやサービスの**開発プロセス初期段階**から、
- ② **生活者**（ユーザー）が中心となって、**企業、大学、行政等と一緒に**、
- ③ **生活の場で**暮らしを豊かにするための**新たな価値を創造**する活動のこと
- ④ 生活者のニーズからイノベーションを誘発する**オープンイノベーションのプラットフォーム**



鎌倉リビングラボの概要

- ❖ 鎌倉リビングラボは、地域住民が望むまちの未来やライフスタイル像をワークショップ等の対話から抽出し、それを叶えるモノ、サービスを企業や行政、大学等とともに試作し、そのプロトタイプを試用しながら住民の真のニーズを引き出すことにより、生活者目線に立ったモノやサービスの開発・改善につなげる活動。
- ❖ 住民が主役となり、生活の場をLab(研究の場)としてモノやサービスを開発。さらに、「企画、試作、試用、評価」の小さなPDCAサイクルを対話の場を通じて繰り返し行うことで、生活者中心のサービス・モノづくりを実施。
- ❖ 高齢化率が高いことを地域の強みと捉え、日本が迎える超高齢社会・長寿社会に必要なモノやサービスを産官学民連携で生み出す場を共創。

鎌倉リビングラボの活動サイクル



- 共創サイクルを繰り返し行い、よりよいもの・サービスを創出します
- 共創サイクルの各プロセスにおいてPDCAサイクルが循環します
- 各プロセスを行きつ戻りつしながら進行します

鎌倉リビングラボで目指すこと

- ❖ 人生100年時代を迎え、世界に先駆けて高齢社会の多様な課題に直面している中、未来社会の新しい価値や社会システム、ライフスタイルを創出するための『イノベーション』を生み出す。
- ❖ 高齢社会の中で、地域コミュニティが地域課題を解決し、市民個人の生活も豊かにする。
- ❖ 年齢、性別、障害の有無、個人の立場に関係なく、鎌倉リビングラボのプロセスにコミットすることで、地域住民が地域の課題をジブンゴト化し、「だったらいいな」の暮らしや地域を創りあげる。
- ❖ 住民が主役となり、産官学民のマルチステークホルダーが地域の課題を考え、みんなで解決していく、新しい課題解決のスタイル。
- ❖ **鎌倉リビングラボの取組を通じて、住民が地域課題をジブンゴト化し、地域の力で課題の解決へ！**



「鎌倉リビングラボ」は、住民の皆さんが「主役」となり、地域の課題を考え、解決していく取り組みです。地域住民だけ、行政だけ、企業だけで解決するという枠組みにはとられない、鎌倉市の目指す新しいスタイル、それは、「みんなで課題解決!」この取り組みは、市民と企業、大学、行政が一体となり、今泉台で始まりました。



昨年、リビングラボの盛んなスウェーデンから国王夫妻と、高円宮紀久子さまが視察に。鎌倉リビングラボは、スウェーデンとの間で共同研究を行っています。

こんな仕組みでつながっています



鎌倉市民のつながりを感じました

鎌倉リビングラボのフィールド「今泉台地域」の特性



鎌倉市今泉台地区 概要

- ・昭和40年代に開発された丘陵地の戸建ニュータウン
- ・高齢化率が約45%と高い(鎌倉市全体は31%)
- ・ゴルフ場やハイキングコースに囲まれた緑豊かな環境
- ・住民の大多数が元サラリーマン・専業主婦の夫婦世帯
- ・社会問題に関心が高く、地域活動が盛んな地域
- ・最寄駅までは20分、急坂(北鎌倉駅)かバス(大船駅)

<今泉台地域基礎データ(2021.7)>

- 人口 : 4,867人
 - 世帯数 : 約2,000世帯
 - 高齢化率 : 44.9%
- (65歳以上人口 : 2,188人)

鎌倉リビングラボ 推進体制・役割とメリット

東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）
一般社団法人未来社会共創センター

学

全体コーディネート、研究デザイン策定、手法開発
新たな知見、アクションリサーチ

鎌倉市役所

官

規制等の調整、後方支援
地域の質向上、モデルの全市展開

共創
協働

高齢社会共創センター会員企業
IOG関係企業 起業家他

産

新しい開発手法を用いた商品サービス開発
CSV（Creating Shared Value）による市場拡大

民

鎌倉今泉台
（町内会・NPO・住民）

当事者、参加者募集、仮説やプロトタイプ評価
地域活性化、社会貢献、コミュニティビジネス

鎌倉リビングラボの展開 ~課題の出発点に応じた3つの取組の柱~

A

住民課題にもとづく...「長寿社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境の開発」

B

自治体課題にもとづく...「リビングラボの手法を用いた政策立案」

⇒タイプBの取組で今泉台地域から他地域へ展開し、全市展開へ

C

企業課題にもとづく...「新たな長寿社会向け商品サービス開発(複数)」

A

住民課題にもとづく…「長寿社会にふさわしいワークスタイルと住宅・地域環境の開発」

「人生100年時代の在宅ワーク環境と家具」

全くゼロの状態からコンセプト設計を行い、商品化の可能性を模索中



コンセプト設計



段ボール Mock-up Model の評価



プロトタイプの評価



プロトタイプを実際に
自宅で使用し評価



テレワーク家具の販売



日本でのリビングラボによる商品開発・販売 第1号

住民の声



- ・自宅でも、こもれる環境で集中したい。
- ・オフィスデスクは仕事をしないときは場所をとる
- ・自宅に馴染むインテリアの要素が欲しい。



ON OFF

生活と仕事のON/OFFを切り替えるテレワークデスク



住民の声を反映

住民の声



- ・テレワーク中は子どもの面倒を見たり、家事をしたりすることもあって、どこでも働ける環境がほしい。
- ・ずっと同じ場所だと集中が続かないので、姿勢や環境をちょっと変えたい時がある。



UBIQ

どこにでも持ち運んで使えるテレワークデスク



住民の声を反映

鎌倉リビングラボと行政施策とのリンク

多世代が
安心して
住み続けられる
まち

**鎌倉リビングラボ
「テレワーク家具の開発」**



リビングラボ活動

若い世代
の流入

新たな価値 の創造

誰もが
働ける社会

家具の活用

新しいワーク&
ライフスタイル
の創出

アイデアの
出し合い

鎌倉
WORKER
の増加

行政施策 ～テレワークの推進～

少子高齢化
したベッドタウン

地域課題の
ジブンゴト化

テレワーク
ライフスタイル
研究会

長寿社会のまちづくり

プラチナ大賞：優秀賞～リーディング賞～ 受賞



- 鎌倉リビングラボで取り組んだテレワーク家具の開発、またその取組を通じて目指す「住み続けられる地域」に向けた活動の報告を行った結果、プラチナ大賞『優秀賞』を受賞。
- さらに、産官学民連携で住民ニーズに応じた商品開発と、新たな価値創造が先進的な取組と評価され、『リーディング賞』の副題をいただいた。

プラチナ大賞とは

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的にプラチナ構想ネットワークが創設。イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題を解決する全国各地の取組を称え、広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図っている。

C 企業課題にもとづく…「新たな長寿社会向け商品サービス開発」

取組テーマ一例

- ◆ 新コンセプトモビリティ
- ◆ 人生100年時代の住まい
- ◆ 医薬品パッケージ(国際比較調査への協力)
- ◆ シニア女性向けヘアケア商品
- ◆ 健康管理デバイス
- ◆ 金融サービスパンフレット
- ◆ 高齢期の孤独(スウェーデンと国際共同ワークショップ)
- ◆ シニアのIoT新価値創造
- ◆ 100年ライフデザインゲーム
- ◆ 新ビジネスアイデアの仮説検証(社内研修への協力)
- ◆ 日本人シニア×海外の若者による日本語通話アプリ
- ◆ コミュニケーションロボットサービスデザイン検討
- ◆ 皮膚密着型センサー試着テスト
- ◆ シニアの食と健康維持に対する新常識とアイデア仮説検証
- ◆ ローカルSNSアプリ検証

※事例は一例です。
高齢社会の課題解決、生活者の暮らし向上や夢の実現をサポートするテーマを中心に多様なテーマに取り組んでいます。



新コンセプトモビリティ試乗評価の様子

* 単なる商品テストとは一線を画す *

- 具体的なモノやサービスの開発が行われる前の段階で、住民が必要としているものをゼロベースで検討し、市民、大学、企業、行政など様々なステークホルダーがアイデアを持ち寄り、サービスのプロトタイプを実際に使ってみながらディスカッションを繰り返すなど、試行錯誤しながらアイデアを具体的な形に育て上げ、新たな価値を創造するもの。

B 自治体課題にもとづく…「リビングラボの手法を用いた政策立案」

テーマ：高齢者のデジタル機器に関するニーズ調査と仮説検証(デジタルデバイドの解消)

- ▼ 行政課題である「デジタルデバイド」の中心となる高齢者を対象として、鎌倉リビングラボの手法を用いて、ボトムアップによる「市民の真のニーズ探索」と「解決策の仮説検証」を実施。
- ▼ 多様な高齢者の実態を把握し、ニーズや課題といった市民の声を反映した住民目線での政策立案を目指す。
- ▼ 鎌倉リビングラボの全市展開を目指し、新たに玉縄台地域をメインフィールドとし実践。



市民の声を政策立案に活かす手法として鎌倉リビングラボを活用

「教えあい」の活動による住民主体の活動へ

- ワークショップや対話等を通じて住民の真のニーズや課題、アイデアを聞き出し、「地域での教えあい」の取組に着目。
- 地域のキーとなる住民自身がデジタル機器を教えあい、その楽しさや使い方を地域住民へ広めていく企画がスタート。

▼キックオフ



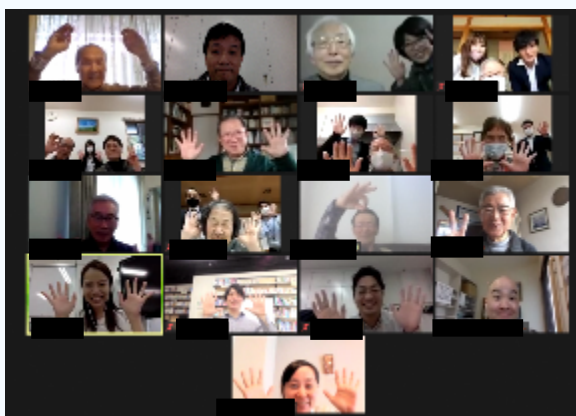
リビングラボの説明と
デジタル機器の体験

▼ワークショップ



デジタル機器に対する
個人のポジネガや、
理想の学び方を抽出

▼オンラインでの活動開始



- ・コロナ禍による活動の継続を
目指し、Zoomの体験会実施。
- ・コロナ禍の効果的な企画を模索。

▼地域住民による自主企画



「教えあい」に着目した
住民の自主企画スタート！

- ★ 鎌倉リビングラボのプロセスを通じて、住民のニーズにかなう仕組みを創出
- ★ 住民自身が主役となって、地域課題をジブンゴト化し、課題を実際に解決していく取組へ
- ★ 住民が本当に望む仕組みを「市の政策」として検討し、他地域への横展開を目指す

各ステークホルダーの声と今後の展開

住民の声



- 自分の何げない生活のことを地域の多様な方とお話できるのは楽しいし、地域の課題解決に役立っていると思うとうれしい。
- 参加したことで、普段の生活の中で自分が大切にしていることは何かを考えるきっかけにもなった。
- 実際に生活の場で使うものが生まれることを考えるとワクワクする。

行政の声



- 住民が主役となり、地域課題の解決とともに、まちに新しい価値を築くことができる。
- 行政だけでは解決しきれない社会課題、地域課題が山積する中、マルチステークホルダーによる共創の取組に価値を感じている。

企業の声



- 実際に使う人たちと一緒に開発できるので、途中で迷ってもその声に立ち返ることができる。また、住民が主体的に参加されていて開発者の一員となっていることに驚いた。
- 一般的なモニター調査とは全く違う生活の場ならではの生の声が聞けた。

大学の声



- 大学で開発された要素技術が実生活にどのように役立つか新しい視点を得られた。
- 大学はこれまで産学連携や社会連携に力を入れてきているが、リビングラボはその実践の場として機能している。

鎌倉リビングラボの取組を通じて、モノやサービス開発、政策立案の先にある
「未来社会の新しい価値の創出」や、**「地域課題の解決」**へ！

スウェーデン国王夫妻が今泉台へ視察にお越しになりました



リビングラボ活動が盛んな北欧のスウェーデンと東京大学が共同研究を行っていた経緯から、鎌倉リビングラボの取組と、今泉台地域の介護福祉施設の取組の視察にお越しになりました。

鎌倉リビングラボの今後の展望

- ❖ 鎌倉リビングラボの活動を通じて、誰もが自らが暮らす地域の課題をジブンゴト化し、住民自身が課題解決できる取組へ。
- ❖ 市民が楽しみながら「だったらいいな」の暮らしやまちを思い描き、産官学民で共に創りあげていく場の創出へ。
- ❖ ありたい地域・暮らしを創るため、年齢・性別・障害の有無等に関係なく、誰もが楽しみながら輝ける場の創出へ。
- ❖ 新しい手法を検討し、コロナ禍においても活動できる取組へ。
- ❖ この仕組みを市内の様々な地域へ展開し、地域の特性に応じた取組へ。



マルチステークホルダーによる新しい共創のかたち

鎌倉リビングラボ

Kamakura Living Lab

鎌倉リビングラボ
Kamakura Living Lab

WEBページ <http://www.cc-aa.or.jp/kamakurall/>